

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科 I 部		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期 月1・4限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担 当 教 員	BSC	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
この授業では、学生がコンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
イーラーニングテキスト 対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。						
《授業外における学習方法》						
自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。 欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。						
《履修に当たっての留意点》						
出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護業界の業務で使用するスキルを活用できる1	介護福祉業界 カンファレンス1	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	(業界講座)介護業界の業務で使用するスキル			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護業界の業務で使用するスキルを活用できる2	介護福祉業界 カンファレンス2	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	(業界講座)介護業界の業務で使用するスキル			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる	Excel基礎1 基本操作	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	オートフィル/数式の作成/SUM関数/グラフ作成/印刷			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関数を駆使した資料を作成できる	Excel基礎2 数式と関数基礎	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	割合を求める/相対参照と絶対参照/AVERAGE関数/COUNTIF関数/シートの操作			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラフを駆使した資料を作成できる	Excel基礎3 グラフ基礎	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	目的に応じたグラフ作成/グラフのレイアウト/行や列の挿入/グラフの編集			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し活用できる	Excel応用A データベース	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データベースとは/データを並べ替える/フィルター/ウィンドウ枠の固定/大きな表を効率よく印刷する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	応用的な関数を活用できる1	Excel応用B 関数応用1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	RANK.EQ関数/SUMIF関数/日付/時刻関数		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	応用的な関数を活用できる2	Excel応用C 関数応用2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	VLOOKUP関数/ IF関数/ IFS関数		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	目的に合ったグラフを選択し、作成することができる	Excel応用D グラフ応用	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	折れ線グラフ/複合グラフ/100%積み上げグラフ/レーダー/スパークライン		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を利用して学科ニュース(新聞)を作成することができる	学科ニュース作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	学科ニュース(新聞)を作成		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を使用し、ポスターを作成することができる	ポスター作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Wordの基本操作の練習、オリジナルポスター作成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	実務で使う資料をデザインすることができる 1	実務資料作成1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	読みやすく、見やすく、見栄えよく資料をデザインする		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	実務で使う資料をデザインすることができる 2	実務資料作成2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	読みやすく、見やすく、見栄えよく資料をデザインする		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	Wordの機能を使用し、園・施設だよりを作成することができる	園・施設だより作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	園・施設だよりを作成		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	AI(人工知能)に関する正しい情報や知識を身に付け、適正かつ有効に活用できる	AIRテラシー	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会でのAI活用事例、AIでできること・できないこと、画像認識体験、AIの欠点や問題点、ディープラーニングの仕組み		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 金曜3・4限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担 当 教 員	BSC	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
この授業では、学生がコンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
イーラーニングテキスト 対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。						
《授業外における学習方法》						
自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。 欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。						
《履修に当たっての留意点》						
出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	iPadのセットアップができる	iPadセットアップ ガイダンス		
		各コマにおける授業予定	各種設定(wifi、office365、Teams等)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	講座を受講する意義を理解し、PCの基本操作ができる	computer career training入門1	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	CCT講座を受講する意義、eラーニングテキストのログイン、 受講時の注意点等、検索力、ICT活用に関するアンケート			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	computer career training入門2	タイピング練習をすること で予習復習を行う。	
		各コマにおける授業予定	インターネットの情報を理解し、かつ、安全にルールに従ったインターネット利用ができる知識や能力を身につける、タイピングを学ぶ意義、タイピングの基礎			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	PCトラブルを解決することができる	computer career training入門3	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	今後起こるであろう様々なPCでのトラブルについて対処方法を ネットで調べ解決する			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	Officeの基本操作ができる	computer career training入門4	イーラーニングテキスト で講義の内容を確認し ておくこと。	
		各コマにおける授業予定	Officeの共通操作、基本操作(Excel)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる	Word基礎1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ビジネス文書とは/ページ設定/インデント/箇条書きと段落番号/均等割り付け/表の作成		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	画像や図形を駆使した文書を作成できる	Word基礎2 画像や図形	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	図形や画像を駆使した文書/画像の編集/テキストボックス/Excelグラフの貼り付け/図形の編集		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	表を駆使した文書を作ることができる	Word基礎3 表の作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	表を駆使した文書/表の基本/複雑な表の作成/表の編集		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	長文作成における必要な操作ができる	Word応用 長文加工	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	抄録作成/ヘッダーとフッター/インデントの設定/ページ番号の挿入/目次の作成/セクション区切り/段組み・段区切り/脚注		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	iPadを活用してさまざまな操作ができる	iPad活用	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「OneDrive」アプリのダウンロード、Word操作練習（編集記号表示・文字選択・表操作・図形の選択・グラフコピーなど）、スキャナー機能、ディクテーション（音声認識機能）		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	プレゼンテーションソフトの基本操作ができる	PowerPoint1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	テーマとバリエーション/プレースホルダー/箇条書きのレベル変更/スライド/ノートの作成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	図形や画像を活用したスライドを作成できる	PowerPoint2 表現力を上げる	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ワードアート/画像の挿入/テキストボックス/図形作成/図形の調整/削除		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる	PowerPoint3 動きを付ける	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	画面切り替え効果の設定/アニメーション効果の設定/スライドショー/印刷/リハーサル		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	作成したスライドを使って発表できる(1)	PowerPoint4 発表1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発表/評価		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	作成したスライドを使って発表できる(2)	PowerPoint4 発表2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発表/評価		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	福祉英語		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 月曜2・3限目	教室名	401・402
担 当 教 員	Kevin Ryujin	実務経験と その関連資格	英語教授に関する資格を保持し、基礎英語や医療英語の教授に関わる。			
《授業科目における学習内容》						
専攻分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけ、実習先や職場での英会話が体験できる。						
《成績評価の方法と基準》						
検定試験 100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Let's Study Welfare in English 英語で福祉を学ぼう(NPO法人 医療福祉英語検定協会) 福祉英語専門用語集(NPO法人 医療福祉英語検定協会)						
《授業外における学習方法》						
用語集を使って、語彙の暗記に努める。						
《履修に当たっての留意点》						
福祉英語検定4級合格に向けて、英語を楽しく勉強しよう！ 積極的に授業に参加してください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に学んだ文法、語彙について説明できるようになる	英語で福祉を学ぼう	前期の授業内容の復習を行う	
		各コマにおける授業予定	英語検定試験4級の振り返り			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	文法に関する質問に答えられるようになる	英語で福祉を学ぼう	前期の授業内容の復習を行う	
		各コマにおける授業予定	英語検定試験3級 文法について学ぶ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	語彙に関する質問に答えられるようになる	英語で福祉を学ぼう	前期の授業内容の復習を行う	
		各コマにおける授業予定	英語検定試験3級 語彙について学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書P.32-37を事前に読む	
		各コマにおける授業予定	教科書 p.32-37 障害者施設での英会話を学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書P.38-41を事前に読む	
		各コマにおける授業予定	教科書p.38-41 障害者施設での英会話を学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書P.42-45を事前に読む
		各コマにおける授業予定	教科書p.42-45 障害者施設での英会話を学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書P.46-49を事前に読む
		各コマにおける授業予定	教科書p.46-49 高齢者施設での英会話を学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書P.50-53を事前に読む
		各コマにおける授業予定	教科書p.50-53 高齢者施設での英会話を学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書P.54-57を事前に読む
		各コマにおける授業予定	教科書p.54-57 児童施設での英会話を学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書P.58-61を事前に読む
		各コマにおける授業予定	教科書p.58-61 児童施設での英会話を学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童との会話、救護に関する英語を理解する	英語で福祉を学ぼう	教科書P.62-65を事前に読む
		各コマにおける授業予定	教科書p.62-65 児童施設、救護施設での英会話を学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	検定試験に向けた復習を自宅でもできるようになる	英語で福祉を学ぼう	これまで学んだことの復習を行う
		各コマにおける授業予定	総復習を行う		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、福祉に関する基礎的な英語を表現できるようになる。	英語で福祉を学ぼう	検定試験に向けた復習を行う
		各コマにおける授業予定	福祉英検3級を受験する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、福祉に関する基礎的な英語を表現できるようになる。	英語で福祉を学ぼう	検定試験に向けた復習を行う
		各コマにおける授業予定	福祉英検3級の振り返りを行う		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまで学んだ英語表現を使って会話をすることができる	英語で福祉を学ぼう	これまで学んだことの復習を行う
		各コマにおける授業予定	学期末の総復習をロールプレイを交えて行う		

学 科	介護福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	福祉英語		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	401・402
担当教員	Kevin Ryujin	実務経験と その関連資格	英語教授に関する資格を保持し、基礎英語や医療英語の教授に関わる。			

《授業科目における学習内容》

専攻分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけ、実習先や職場での英会話が体験できる。

《成績評価の方法と基準》

検定試験 100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

Let's Study Welfare in English 英語で福祉を学ぼう(NPO法人 医療福祉英語検定協会)
福祉英語専門用語集(NPO法人 医療福祉英語検定協会)

《授業外における学習方法》

用語集を使って、語彙の暗記に努める。

《履修に当たっての留意点》

福祉英語検定4級合格に向けて、英語を楽しく勉強しよう！
積極的に授業に参加してください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 授業を 通じての 到達目標	患者様に向けた挨拶ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L1を事前に読んでおくこと
	各コマに おける 授業予定	イントロダクション、L1 挨拶		
第2回	講義 授業を 通じての 到達目標	部屋への案内、器具や備品の使い方を説明できるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L2を事前に読んでおくこと
	各コマに おける 授業予定	L2 場所に関する表現を学ぶ		
第3回	講義 授業を 通じての 到達目標	好き嫌いについて尋ね、食事の案内ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L3を事前に読んでおくこと
	各コマに おける 授業予定	L3 食事の時間と好き嫌いについて学ぶ		
第4回	講義 授業を 通じての 到達目標	食事介助をするにあたり、説明や提案ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L4を事前に読んでおくこと
	各コマに おける 授業予定	L4 食事介助時の表現方法を学ぶ		
第5回	講義 授業を 通じての 到達目標	園児や保護者との会話ができるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L5を事前に読んでおくこと
	各コマに おける 授業予定	L5 保育施設でのコミュニケーションの取り方を学ぶ		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	測定時の説明、また測定結果を伝えられるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L6を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L6 体温と脈拍測定についての表現を学ぶ		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	測定時の説明、また測定結果を伝えられるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L7を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L7 血圧測定についての表現方法を学ぶ		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体介助時の説明ができ、提案や勧誘もできるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L8,9を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L8,9 身体介助の表現方法を学ぶ		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	利用者の要求を理解できるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L10を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L10 利用者の要求に沿った様々な動作の表現を学ぶ		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手順の説明や指示が出せるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L11を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L11 マッサージの表現について学ぶ		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	同僚へ利用者について英語で説明できるようになる	英語で福祉を学ぼう	教科書L12を事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	L12 利用者についてのミーティングについて学ぶ		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検定試験に向けた復習を自宅でもできるようになる	英語で福祉を学ぼう	検定試験に向けた復習をすること
		各コマにおける授業予定	総復習を行う		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、福祉に関する基礎的な英語を表現できるようになる	英語で福祉を学ぼう	検定試験に向けた復習をすること
		各コマにおける授業予定	福祉英検4級を受験する。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、福祉に関する基礎的な英語を表現できるようになる	英語で福祉を学ぼう	検定試験で分からなかった表現などを整理すること
		各コマにおける授業予定	福祉英検4級の振り返りを行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまで学んだ英語表現を使って会話をすることができる	英語で福祉を学ぼう	これまで学んだ事の復習をすること
		各コマにおける授業予定	学期末の総復習をロールプレイを交えて行う		

学 科	介護福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	介護福祉研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期 木曜1・2限	教室名	401・402・PC室
担当教員	上村 茜	実務経験と その関連資格	関西国際大学大学院にて博士課程を修了。臨床心理士、公認心理士としてカウンセラーとして勤務している			

《授業科目における学習内容》

高齢者・家族にとってのより良い生活、楽しみ、活動の支援・介助についてグループ研究として取り組む。知識を専門的に身につけ、現場の気付きから科学的な手続きを通して、幅広く共有可能な形にまとめて、論文を作成・発表することができる。

《成績評価の方法と基準》

グループ評価・・・研究計画書70%、出席20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

- ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行
- ・Google Scholar, CiNii

《授業外における学習方法》

研究のテーマは、臨床の現場に数多く存在します。常に、クリティカルな考えを持つことがよい研究テーマと出会えます。ものの考え方などを訓練することをお勧めします。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉研究では学生自らが主体的に行います。グループでの取り組みとなるため、お互いに協力して進めていきましょう。教員はあくまで助言する立場であるため積極的に進めること。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	卒業研究への取り組み、スケジュールを説明することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	オリエンテーションを聞き、研究テーマの見つけ方を説明できる		
第2回	授業を通じての到達目標	グループで議論し、仮説を設定し研究計画書を立案することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	なぜ研究を行うのか、介護の領域における問題点を知る		
第3回	授業を通じての到達目標	関心のあるテーマを見つけることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	CQ、RQを理解し、興味のあるテーマを絞る		
第4回	授業を通じての到達目標	日常で感じている疑問を、他者と共有し研究につなげることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	他者と疑問や課題について話し合い、新しい発見を得る		
第5回	授業を通じての到達目標	興味、関心あるテーマについて文献検索することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	文献検索の手法を理解することができる		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	先行研究をまとめ研究内容とすり合わせることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	先行研究をもとに研究テーマを絞り込む		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	研究の種類、方法を説明することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	質的研究と量的研究について理解する		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	テーマ別で仮グループを作り、仮テーマを決めることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	研究仮グループで研究計画書「テーマ」について理解する		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画書「テーマ」について説明できる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	仮テーマで研究計画書を作ることを理解する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	研究計画書「動機、背景」について説明することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	研究動機、研究の背景を文献からまとめることを理解する 何が明らかになって、明らかになっていないかを理解する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	目的、倫理的配慮、仮説を説明することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	研究計画書「目的、倫理的配慮、仮説」について理解する		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	方法、倫理的配慮を説明することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	研究計画書「方法、倫理的配慮」について理解する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	テーマを絞り、背景、目的、意義、仮説の整合性はあるか議論できる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	グループ、担当教員を発表し、今後の計画について講義する。 研究計画書の作成		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで議論し、仮説を設定し研究計画書を立案することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	研究計画書の作成、調査の準備を適切に行う		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究の意義や重要性について考えをまとめることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	研究計画書や調査方法など振り返り進捗を確認する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護福祉特講		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 月曜1・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	上木大雅/松田若那	実務経験とその関連資格	(上木)介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務 (松田)社会福祉士を取得後、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務。その後、相談支援専門員として児童の計画相談業務に従事。			
《授業科目における学習内容》						
介護の教育効果を上げるため、また、介護福祉士としての職業適性に磨きをかけるために、指定科目以外での課外授業や施設見学、卒業生や上級生、他学科との交流の機会、卒にとらわれない介護福祉士に必要な知識や技術の能力等に相互的に役立てることができる。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題(70%)参加度(30%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回の授業内容についての確認をするので、復習しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士について職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	介護実習の意義と目的を理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版		使用教材14ページから37ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護実習について			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「介護の仕事ってスゴイ、特別養護老人ホームの一日編」を見て疑問に思ったことについて意見を出すことができる。	YouTube「介護の仕事ってすごい、特別養護老人ホームの1日編」・最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版		使用教材112ページから135ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設について			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	介護実習の取り組み、実習報告会での発表方法について学び、自分の発表に活かせることができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版		使用教材64ページから75ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	2年生実習報告会に参加			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	就職フェアに参加するにあたってのマナーについての確認と認識ができるようになる。	就職フェア冊子		就職フェアの冊子に目を通し、話しを聞いてみたい施設について調べ学習を行う
		各コマにおける授業予定	就職フェアについて			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	就職フェア参加時の自分のマナーについて振り返り、今後の課題を明確にする。話しを聞いた施設の感想シートを記入し、意見がまとめられるようになる。	就職フェア冊子		就職フェアで話しを聞いた施設についてプリントにまとめる
		各コマにおける授業予定	就職フェアの振り返り			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークで自分の意見を伝えることができ、グループで出た意見についてまとめることができる。グループ内での自分の役割について理解できる	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	介護の魅力について自分の意見が言えるよう考えておく。
		各コマにおける授業予定	介護の仕事の魅力についてグループごとに意見を出し合い、ポスターの作成をする。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	一人ひとりがグループの中での自分の役割を理解して分かりやすく発表することができる。感想シートから学んだことについてグループ内で意見交換をし、考察できるようにする。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	グループで集まり発表に向けて準備する。
		各コマにおける授業予定	介護の仕事の魅力についてグループごとに発表を行う		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	施設の特徴について理解ができ、わからないことは質問することができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	施設についてまとめたプリントを確認しておく。
		各コマにおける授業予定	施設見学		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習前の意義と目的、実習に臨む態度や姿勢、実習後の学習の意義と目的を理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材40ページから75ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護実習準備、実習中、実習後の学び		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習書類、実習日誌を書く目的、書き方を学び、書けるようになる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材40ページから76ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習日誌の書き方		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習施設について調べ学習を行い、施設の特徴を理解できる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材40ページから77ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習施設の発表、実習施設を調べる。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習へ行く目的を理解し、目標を立て、実習をまえにしての下書きができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習目標、実習を前にして(下書き)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習目標、実習を前にしての清書を提出することができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習目標、実習を前にして(清書)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習書類の種類を把握し、下書きを行うことができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類、下書き		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実習書類を確認してもらい、清書を提出することができる。	最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習第2版	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類清書、事前学習について		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	手話と点字(手話)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 水曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	奈須田 恵子	実務経験と その関連資格	大阪府手話通訳者・大阪ろうあ会館手話講師			
《授業科目における学習内容》						
聴覚障害者を理解し、聴覚障害者のコミュニケーション方法を学ぶ 聴覚障害者の日常生活の一助となる事を目的とする						
《成績評価の方法と基準》						
実技を伴う授業なので授業態度・実技試験を重視する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
「手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう」						
《授業外における学習方法》						
関連書籍など適宜紹介する						
《履修に当たっての留意点》						
手話は聴覚障害者がもつ言語であり、コミュニケーションには欠かせない手段です。 言いたい事を伝える 相手の言いたい事を理解しようとする 伝える事の大切さを学びます						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	オリエンテーション 初対面の挨拶を手話で覚える 指文字で名前を表見できる	教科書	教科書を見ておくこと	
		各コマに おける 授業予定	第3講座 名前を紹介しましょう			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	表情・身振りの形を覚えることができる	教科書	事前に復習しておく事	
		各コマに おける 授業予定	第1・2講座 身振り・指さし・表情などを学びましょう			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	人物の表現の基礎となる家族の手話表現を覚える 自分の家族の紹介ができるようになる	教科書	事前に復習しておく事	
		各コマに おける 授業予定	第4講座 家族を紹介しましょう			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	数の表し方をまなぶ 疑問詞の表現ができる	教科書	事前に復習しておく事	
		各コマに おける 授業予定	第5講座 数を使って話しましょう			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	趣味をテーマに自己紹介ができるようになる	教科書	事前に復習しておく事	
		各コマに おける 授業予定	第6講座 趣味について話しましょう			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介ができるようになる 自分をアピールしてみる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第9講座 自己紹介をしましょう まとめ		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地名の手話を学び、住所、交通の方法を手話で表現できる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第8講座 住所を紹介しましょう		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介ができるようになる 手話で質問をする、質問に答えてみよう	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第9講座 自己紹介をしましょう まとめ		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	仕事の手話表現を覚え、仕事をテーマに会話ができるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第7講座 仕事について話しましょう		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 一日の生活を手話で表現できるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第10講座 一日の流れについて話しましょう		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 過去・現在・未来の時を表す手話を学び、理解できるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第11講座 一週間の流れについて話しましょう		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 過去・現在・未来の時を表す手話を学び、理解できるようになる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第11講座 一カ月の流れについて話しましょう		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	時の表し方を学ぶ 季節・月・年に関する手話の表現を学び、1年間の出来事を話すことができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	第12講座 行事の計画について話しましょう		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で伝えてみる事ができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	全体の到着度の確認		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で伝えてみる事ができる	教科書	事前に復習しておく事
		各コマにおける授業予定	全体のまとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	人間の尊厳と自立		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 火曜1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	西本 麻衣	実務経験とその関連資格	福祉・医療領域にて、障がい者とその家族や関係者の支援現場、相談業務の経験を経て、現在障がい児童支援事業に従事。臨床心理士、公認心理師資格			
《授業科目における学習内容》						
「人間の尊厳と人権・福祉理念」は人権思想の潮流や関連法律を通じて、「自他の理解とコミュニケーション」は心理学を通じて、「チームマネジメント」は現場をイメージすることで学び、尊厳とは何か、自立とはどういうことかを知ることができます。						
《成績評価の方法と基準》						
科目終了試験 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書、参考資料(プリント)						
《授業外における学習方法》						
他者理解と自己理解は同時に成立します。私らしく生活することの自由と責任は人権として、他者の生き方や個性を大切にすることは尊厳として、日々の生活の中に指標としてある人権意識に気がつくことから始めましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
歴史と法律、心理学、実践(現場)と幅広い内容を授業で取り上げます。板書するだけでなく、よく聞きよく考えながら学ぶ姿勢が大切です。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	私らしさ、障がい、人間の尊厳について知り、考察することができる	テキスト	日常生活にある社会的障壁を見つける	
		各コマにおける授業予定	「障害基本法」を学び、共生社会の実現に必要な考え方を知る			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権思想の歴史を学び、人権の今とこれからを考える事ができる	テキスト	テキスト該当ページを読む	
		各コマにおける授業予定	自由権と社会権を学び、人権思想の潮流を俯瞰する			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	人権思想の諸規定において日本と世界の動向を知ることができる	テキスト	仏「人権宣言」米「独立宣言」について映画やドラマで知る	
		各コマにおける授業予定	日本国憲法12条、13条、25条、介護保険法、障害者総合支援法を学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉領域における人権思想の変遷を知り、考えることができる	テキスト 参考プリント	テキスト該当ページを読む	
		各コマにおける授業予定	社会保障の始まりであるエリザベス救貧法から優生思想の政策化を学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉領域における人権思想の変遷を知り、考えることができる2	テキスト	ハンセン病について調べる	
		各コマにおける授業予定	社会保障の始まりであるエリザベス救貧法から優生思想の政策化を学ぶ2			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	世界人権宣言以降現代における人権問題について考察できるようになる	テキスト	マイノリティーについて調べる
		各コマにおける授業予定	子ども、貧困、マイノリティーにまつわる社会情勢と人権問題について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	権利擁護とは何かを学び、考える事ができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	社会サービス、制度によって保障されている権利について学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	権利侵害が生じる背景と権利擁護について身近な事例で考え、理解を深めることができる	テキスト	身近にある権利侵害について考える
		各コマにおける授業予定	権利侵害が生じる背景を多面的に捉え、権利擁護の視点を深める		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「自立」とはどのような状態なのかを考え、自分の考えを持てるようになる	テキスト	「自立」という言葉のイメージと自分にとっての自立を考える
		各コマにおける授業予定	「自立」を多面的にとらえる。精神的、身体的、経済的自立について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする人の「自立」を考える。支援のあり方について尊厳の視点から考えられるようになる	テキスト	障がいのある方、高齢者にとっての自立(意思決定)について考える
		各コマにおける授業予定	尊厳を守る為の自立支援について、自立、依存、意思決定をテーマに学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICIDHからICFへの変遷を理解できるようになる	テキスト	テキスト該当ページ(図)を読む
		各コマにおける授業予定	尊厳を守る為の自立支援について、自立を俯瞰的な視点で捉え考える		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	自他の理解と関係形成について知識を身につけることができる	テキスト	テキスト該当ページを読む
		各コマにおける授業予定	自我、自意識、他者への認識についての諸理論を学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達心理学から捉える自分、他者、関係形成について学び、理論を理解できるようになる	テキスト	ノンバーバルコミュニケーション、カウンセリングスキルを1つ実践してみる
		各コマにおける授業予定	認知発達、ライフサイクル理論を学び、自他の理解、関係形成の発達やその不具合について考える		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会心理学から捉える自分、他者、関係形成を学び、人間関係について考えられる視点を持つことができる	テキスト	他者の行動アセスメントを実践してみる
		各コマにおける授業予定	対人認知や人間関係について代表的な研究とそこから導き出された理論を学び、考える視点を持つ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションと特性や構造、ケースワークを通じ、自身のコミュニケーションについて知ることができる	テキスト	自身のコミュニケーションパターンを知り、スキルとしてのコミュニケーションを実施してみる
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについて概念的な理解を深め、事例検討を通じて実践的に感じ考える		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門的分野	授業の方法	講義
科 目 名	社会の理解 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 木曜1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	武田 真澄	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームの介護職員、生活相談員、施設ケアマネを経験し医療法人と社会福祉協議会の地域包括支援センターで主任ケアマネジャーとして勤務。現在は居宅介護支援事業所の管理者でケアマネ業務を行っている。社会福祉士・主任介護支援専門員資格			
《授業科目における学習内容》						
介護福祉士として必要な法制度、特に社会保障のしくみ、介護保険制度を理解できるようになる。また、地域共生社会の考え方や地域包括ケアの仕組みの理解につなげていく。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
社会と制度の理解 介護福祉士国家試験過去問						
《授業外における学習方法》						
授業で習った内容の復習。ニュースや新聞等で福祉施策、高齢者、障害者制度の改正や動向に目を向ける。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士として必要な諸制度を実際の現場で応用できるようわかりやすく伝えます。また、覚えなければならない制度の仕組みについてポイントしっかり押さえていきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習方法や授業の内容、流れについて理解し国家試験にむけて重要ポイントを学ぶことができる。	教科書	自分が生まれてから死ぬまでの必要な社会保障制度についてまとめてみる。	
		各コマにおける授業予定	社会と制度の理解についての説明(今後の授業内容)・自己紹介等			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活と仕事にかかわる基本、家族についての定義を説明できる。	教科書	自らのライフサイクルをまとめ、ジェノグラムを作成する。	
		各コマにおける授業予定	生活の構造～家族とは			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域社会の意味、集団、組織、市町村合併の歴史を理解する。地域共生社会の実現に向けた施策等について説明することができる。地 育児・介護休業法、社会福祉と社会保障の基本を学び、理解することができる。	教科書	自分が住む地域の居場所、サロンなどどのようなものがあるか調べる。	
		各コマにおける授業予定	・地域社会と個人～人と社会 ・地域包括ケアシステムの構築 ・地域共生社会の実現に向けた制度や施策			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の定義、その目的や機能について学ぶ。社会保障制度にはどのような制度があるのか理解できる。	教科書 配布プリント	自分や家族が現在どのような社会保障制度を利用しているのか調べておく。	
		各コマにおける授業予定	社会保障の基本的な考え方			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本国憲法のなかの社会保障に関する条文を理解する。第二次世界大戦後から現代にいたる間の社会保障の歴史を学び、理解することができる。	教科書 配布プリント	年金制度や医療保険制度、社会福祉制度(児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉)といった社会保障の各制度がどのように改正され変化してきたか整理しておく。	
		各コマにおける授業予定	日本の社会保障制度の発達			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の全体像を理解し、わが国の社会保険の5つの制度について学ぶことができる。	教科書 配布プリント	社会保障制度が自分たちの生活や人生においてどのような影響があるか考えてみる。年金制度がなかったらどうなるかなど。
		各コマにおける授業予定	日本の社会保障制度の仕組み		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の給付と負担の関係について理解できる。	教科書 配布プリント	人口減少社会における社会保障制度の課題や対応方法について考えておく。
		各コマにおける授業予定	現代社会と社会保障制度		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保険と社会扶助について繰り返し学び、その種類と内容について答えることができる。	教科書 配布プリント	家族や自分の加入している医療保険について調べておく。
		各コマにおける授業予定	社会保障制度の確認		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険創設の背景について理解できる。	教科書 配布プリント	自分の自宅がある市町村の人口、高齢化率について調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の目的		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険申請からサービス利用までの流れが理解できる。	教科書 配布プリント	自分の家族が介護が必要になった時の対応や制度について考えてみる。
		各コマにおける授業予定	介護保険の仕組み		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス、地域支援事業の種類と内容が理解できる。	教科書 配布プリント	居住する地域にどのようなサービス事業所がどのくらいあるか調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険の仕組み		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国や都道府県、市町村の役割が理解できる。	教科書 配布プリント	自分が住むまちの介護保険事業計画について調べる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度にかかわる組織とその役割		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護の実践に関わる専門職の役割について理解できる。	教科書 配布プリント	自分が目指している介護福祉士の姿を想像し書き出してみる。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度による専門職の役割～介護保険制度の動向		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度の改正のポイントやこれからの介護保険制度の課題について理解できる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の確認		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障や介護保険制度について振り返りを行い各制度についてきちんと内容を答えることができる。	教科書 配布プリント	重要ポイントを整理し授業内容を振り返る。
		各コマにおける授業予定	今まで履修した内容の確認。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	人間関係とコミュニケーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 水曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	松山 剛	実務経験と その関連資格	精神科病院に精神保健福祉士として勤務、医療福祉相談室や精神科デイケアで支援に従事した。そのほか、地域活動支援センターでの勤務、相談支援専門員としての実務経験あり。			

《授業科目における学習内容》

より良い関係を作るために必要な人間関係に関する心理学的な知識の理解、習得。
基礎的なカウンセリング技法をはじめとしたコミュニケーション技法の理解、習得。

《成績評価の方法と基準》

出席点20%、平常点10%、期末テスト70%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

介護福祉士養成講座編集委員会編集 『最新介護福祉士養成講座1 人間の理解』第2版 中央法規出版 2022年2月1日発行

《授業外における学習方法》

次回授業における教科書の当該箇所を予め明示するので、予習において一読してくることを求める。

《履修に当たっての留意点》

理解の定着を図るためにも、授業で学習した内容を各自が日常生活の人間関係に当てはめて理解するよう努めること。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 この科目で取り扱う内容及び習得すべき知識の全体像を把握する。 人間らしさについて理解し、説明できる。	教科書 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション+人間らしさの始まり(人類の進化、人間らしさ、介護)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 自己と他者の概念について理解し、他者を尊重できる。	教科書 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	自分と他者の理解(先天的要素と後天的要素、自己覚知、自己理解)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達心理学的視点で対象者を理解、把握できる。	教科書 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	発達心理学からみた人間関係(発達とは、エリクソンの発達段階説、アイデンティティ、社会性の発達)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 社会心理学的視点で、集団の特性について理解し、人間関係を把握できる。	教科書 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	社会心理学からみた人間関係(認知、対人認知、集団、集団の中の人間関係)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 ストレスの種類、仕組み、対処方法について理解し、説明できる。	教科書 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	人間関係とストレス(ストレス反応とストレスサー、ストレスコーピング、ソーシャルサポート)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの仕組みと目的について説明できる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの概念とコミュニケーションの基本(コミュニケーションとは、コミュニケーションの仕組み)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々なコミュニケーションの方法について理解し、相手に合わせた適切なコミュニケーションを使い分けることができる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの手段(言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	他者を理解するために必要なコミュニケーションについて説明できる。	教科書 配布資料 DVD	<ul style="list-style-type: none"> 事前配布資料を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	他者を理解するためのコミュニケーション		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人援助の基本となるコミュニケーションについて説明できる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	対人援助の基本となるコミュニケーション(人間関係の発展と衰退におけるコミュニケーション)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	アサーティブなコミュニケーションについて理解し、意識したコミュニケーションができる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	人間関係とコミュニケーション上の配慮(アサーティブコミュニケーション)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングの基本的姿勢について理解し、説明できる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	対人援助における基本的態度(受容、共感、傾聴)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	対人援助職としての基本的な姿勢を身に着け、説明できる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の仕組みを理解し、組織内でのコミュニケーションを促進できる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	組織の条件とコミュニケーションの特徴		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織における情報の流れとコミュニケーションについて説明できる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	組織における情報の流れと組織において求められるコミュニケーション(ボトムアップ、トップダウン)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	より良い人間関係の構築のために必要なコミュニケーションについて説明できる。	教科書 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

学 科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	現代社会と職業		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	後期 木曜3・4限	教室名	501
担当教員	小寺 利恵子	実務経験と その関連資格	人材育成の会社にて、病院・企業等の新入社員研修に従事し、専門学校等でサービス接 遇・秘書・コミュニケーション・ビジネス文書・語彙読解検定等を指導			

《授業科目における学習内容》

ニュース時事能力検定は、新聞やテレビのニュース報道を読み解き、活用する力を養い現代社会の出来事を多角的・公正に理解・判断し総合的な知識・思考力・判断力を養うことが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70% 出席評価点20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:ニュース検定基礎編 3・4級 ・ 理解力UPシート①～⑫

《授業外における学習方法》

毎日の新聞・テレビのニュース、現在、世の中で起きていることに興味を持ち、分からないことは調べ、ニュースを通して家族・友人と意見を交換し合い、社会とどのように関わっていくべきかを学ぶ。

《履修に当たっての留意点》

高校の公民・地理歴史などの学習、新聞やテレビの主要なニュースを現実の社会と関連付けて深め理解しましょう。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	民主主義・一票格差を考える。日本国憲法・9条改正とは。皇位継承・主な国々との外交について理解する。		ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート①②③	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義			
第2回	授業を通じての到達目標	地域づくりの基となる地方自治について考える。日本経済(政府の経済対策)・世界経済の見通しについて考える。		ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート④⑤⑥	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義			
第3回	授業を通じての到達目標	これからの日本の産業・エネルギー・人口減少(少子化の背景と今後)・社会保険の基本を理解することができる。		ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑦⑧⑨⑩	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義			
第4回	授業を通じての到達目標	労働者の権利・ヤングケアラー・共生社会について理解する		ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑪⑫⑬	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義			
第5回	授業を通じての到達目標	司法と市民(健康被害の救済を後押し)・裁判員・情報社会を理解する。		ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑭⑮	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コロナウイルス・ゲノム編集・ガン等にこれからどう向き合うのかを知り、考える。多様化する災害の影響・地球環境を守るための取り組みを理解する。	ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑯⑰⑱	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	対立する中国とアメリカは協調出来るか・核兵器と向き合う世界・SDGsについて考える。	ニュース検定基礎編3・4級 理解力UPシート⑲⑳㉑	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れを理解出来るようになる。	ニュース検定3・4級過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース検定に備えての講義		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書の構成を理解し、社内文書・社外文書を作成することが出来るようになる。	ビジネス文書の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ビジネス文書の構成を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書の構成を理解し、社内文書・社外文書を作成することが出来るようになる。	ビジネス文書の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ビジネス文書の構成を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	儀礼的な手紙を書けるようにする。(実習後の礼状)	ビジネス文書の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	縦書きの手紙の書き方を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の季節の行事が理解出来る。	日本のしきたりの資料・年賀状の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	年賀状について・日本の様々な行事を理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の季節の行事が理解出来る。	日本の行事の資料	後期テストの備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年を通しての日本の様々な行事を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期テストに備えての復習	ニュース検定基礎編3・4のまとめ	後期テストに備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	後期まとめ。確認。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期テストに備えての復習	ニュース検定基礎編3・4のまとめ	後期テストに備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	後期まとめ。確認。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	現代社会と職業		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 木曜3.4限	教室名	401・402
担 当 教 員	小寺 利恵子	実務経験とその関連資格	人材育成の会社にて、病院・企業等の新入社員研修に従事し、専門学校等でサービス接遇・秘書・コミュニケーション・ビジネス文書・語彙読解検定等を指導			
《授業科目における学習内容》						
ものの見方や考え方の多様化が進んでおり、コミュニケーション力がますます重要度を増している。コミュニケーション力を高めるには、自己変革をする。人の気持ちを汲む力を高める。自分の気持ちや考えを効果的に伝えるコミュニケーション技法を身につけることが出来る。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:コミュニケーション スキルアップ検定 ・ 関連資料配付						
《授業外における学習方法》						
人はコミュニケーションなしでは生きていけない。人との関係の中で生きていかなければならない人間にとって、コミュニケーションは重要な道具である。授業の中で学習したことを実生活の中でも積み重ねていくと、コミュニケーション力を向上させることが出来る。						
《履修に当たっての留意点》						
コミュニケーションの基本はツーウェイであり、一方的に話し、聴くワンウェイのコミュニケーションでは成立しません。ツーウェイのコミュニケーションを阻むものは、第一に送り手、受けて、双方の好き嫌いの感情、先入観です。第二に価値観が異なることです。それらをしっかり理解しましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的な社会的スキルを学べば良好な人間関係を築くために必要であるということが理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	円滑なコミュニケーションを図るためには挨拶・正しい敬語が必要であると理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	電話応対・接客等は、最初の応対で会社の第一印象が決まるためこれらの知識と技術は、コミュニケーションをスムーズにするきっかけと理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成。ビジネス文書は、正確・簡潔・明瞭に作成することが大切であると理解でき、また、作成できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーション＝伝え合って共有することだと理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションとは何かを理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	どのように話し、聴くことが望ましいのか、グループでの会話では何に気を付けなければならないのかを、具体的に理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	基本的対話スキル。対話を通してよいコミュニケーションをするための基本を学び理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	円滑な人間関係を築くためには、基礎となる5つの表現手段を理解できる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	自己表現スキル。人間関係を円滑にするための伝え方の基本と表現手段を理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係が複雑な仕事を円滑にするための4つの表現手段を理解することが出来る。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	自己表現スキル。仕事上で必要される伝え方の基本と表現手段を理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	顧客の望むことを自分のできる限り行う。それを自分の喜びとすることがサービスのすべてであり、サービスとは顧客満足度を高めるものだと言える。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	サービスマインド。感動を与えるサービスとは自分自身が生き生きとサービスを提供することが基本であることを理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れが理解出来るようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回までの振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションについて理解をし必要な知識、技能を学ぶことが出来たか振り返ることができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	前期テストに備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期まとめ。前期テストに備える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションについて理解をし必要な知識、技能を学ぶことが出来たか振り返ることができる。	コミュニケーションスキルアップ検定	前期テストに備えて、これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期まとめ。前期テストに備える。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護の基本 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 金曜1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	坂本 愛子	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

利用者理解及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方を理解する。介護の専門性の理解を深め、介護を「科学する力」を養う。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規 最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。
特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。実習後も振り返りを行い、実習での学びを結びつける。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本について必要な知識を学びます。介護の専門職としての姿勢や考え方を理解し、介護福祉士としての基礎を身につけていきましょう。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期試験からの振り返り、後期授業のオリエンテーションを通じ、苦手分野の把握をすることができる	・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料	・前期のレジュメ等の持参確認。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	前期試験の解答から、苦手な問題を中心に復習を行う			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人がもつべき職業倫理について理解できる	・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	介護福祉士の倫理、「介護の倫理」に実践「尊厳ある介護実践」			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人がもつべき職業倫理について理解できる	・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	介護福祉士の倫理、「介護の倫理」に実践「尊厳ある介護実践」			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどう生かすことができるか考察ができる	・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどう生かすことができるか考察ができる	・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本介護福祉士会倫理綱領、介護福祉の専門性を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本介護福祉士会倫理綱領、介護福祉の専門性を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	日本介護福祉士会倫理綱領について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援の具体的な考え方を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自立支援、自己決定権、エンパワメントについて		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援の具体的な考え方を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自立支援、自己決定権、エンパワメントについて		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICFにおける生活機能と快苦因子の相互作用について理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	ICF、ICIDHについて、利用者の持つ強さ(ストレングス)について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方について理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの概念、リハビリテーションの実際		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援と介護予防の基本的な考え方を理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護予防の目的と考え方		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムと介護予防について再認識し理解できている	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	自助、互助、共助、公助の重なり合い		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期の学びにより、介護の全体像についての理解が深まり、まとめることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	生命科学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 木曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	清水 一	実務経験と その関連資格	看護助手をへて、看護師になる。看護部長として9年目になる。			

《授業科目における学習内容》

人体のメカニズムを知り、実践で活用できるよう解説し、人体の仕組みの知識を習得する

《成績評価の方法と基準》

試験素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

日本医科大学名誉教授 浅野伍郎 監修 成美堂出版 「からだのしくみ事典」

《授業外における学習方法》

教科書を使ってポイントを絞って覚えてもらう。小テストを実施し、日々解剖に興味を持ち理解を促す。

《履修に当たっての留意点》

解剖は覚える事が多く、理解する部分が少ないので、覚えやすい説明を心がけ、専門用語に慣れるようにアプローチしていきます。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓の役割や位置を理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」	自分で教科書を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	内臓の役割(概要)位置 機能(胃)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓の役割や位置を理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第1回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	内臓の役割(概要)位置 機能(胃・肝臓)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	各臓器の動き 働きを知り、知識を習得することができる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第2回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	消化器・口から肛門までの道のり肝臓・各臓器の動き		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓の役割や位置を理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第3回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	内臓の役割(概要)位置 機能(栄養素・肝のうのしくみ・ガス交換・肺)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	内臓の役割や位置を理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第4回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	内臓の役割(概要)位置 機能(ガス交換・肺)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の役割 骨格のしくみを知り、知識を習得することができる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第5回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	骨の役割 骨格		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の役割 関節、軟骨の動きを知り、知識を習得することができる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第6回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	骨の役割 関節、軟骨の動き		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳のしくみ 役割を知り、理解を深めることができる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第7回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	脳・脳のしくみ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器のしくみ 働きを知り、理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第8回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	感覚器、眼の構造		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器のしくみ 働きを知り、理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第9回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	感覚器、耳の構造		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	歯 皮膚 爪の構造を知り、理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第10回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	歯 皮膚 爪(歯、皮膚、爪の構造)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓のしくみを知り、理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第11回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	心臓・心臓のしくみ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓のしくみを知り、理解できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	第12回の授業内容の小テストを実施するので復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	心臓・心臓のしくみ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	各臓器のしくみ 動き 働きを理解し、説明できるようになる	教科書「からだのしくみ事典」 小テスト	授業の内容のテストを実施するので復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	総復習(各臓器のしくみと働き)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去の国試試験問題集を問いて、本試験に備え、対応ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	過去の国試問題集を読むこと
		各コマにおける授業予定	国試問題		

学 科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護の基本 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期 水曜1,2限目	教室名	401・402
担当教員	坂本 愛子	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

利用者及び自立に向けた介護実践に関わる概念や考え方を理解する。
介護の専門性の理解を深め、介護を「科学する力」を養う

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規 最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。
特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。実習後も振り返りを行い、実習での学びを結びつける。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本について必要な知識を学びます。介護の専門職としての姿勢や考え方を理解し、介護福祉士としての基礎を身につけていきましょう。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を取りまく状況を理解することができる。	・教科書 中央法規 最新・介護福祉士 養成講座 介護の 基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護福祉、介護の基本 I について ・介護の成り立ちについて		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を取りまく状況について理解できる。	・教科書 中央法規 最新・介護福祉士 養成講座 介護の 基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護の成り立ち、介護サービス		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法が成立した社会的背景を理解することができる。	・教科書 中央法規 最新・介護福祉士 養成講座 介護の 基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・「介護」が生まれた社会的背景 ・老人福祉法		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険法によって規定される、介護の範囲を理解できる。	・教科書 中央法規 最新・介護福祉士 養成講座 介護の 基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・老人福祉法によって、規定された老人福祉施設 ・介護サービス内容の変化		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険法によって規定される、介護の範囲を理解できる。	・教科書 中央法規 最新・介護福祉士 養成講座 介護の 基本 I ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	・介護サービス内容の変化 ・社会福祉士及び介護福祉士法		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の定義規定の変遷について理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士及び介護福祉士法 ・定義規定 		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の定義規定の変遷について理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践における基本的概念 ・介護保険法 		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の定義規定の変遷について理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護における介護サービスの内容 ・定義規定の変遷 		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の基本となる理念を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護福祉職の支援行為の方向性		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の基本となる理念を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳を支える介護 ・自立を支える介護 		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士及び介護福祉士法の概念を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士及び介護福祉士法 ・介護福祉士が守るべき業務規程 		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士及び介護福祉士法の概念を理解できる。 ・介護福祉士の活動の場と役割を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・地域包括ケアシステム 		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の活躍の場と役割を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防 ・医療的ケア、災害時のケア 		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士に求められる役割を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・役割とその養成 ・専門職能団体 		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の学びにより、介護の全体像についての理解が深まり、まとめることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	介護の基本Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 火曜1・2限	教室名	401・402・体育室
担 当 教 員	山本満佐子	実務経験と その関連資格	専門学校にて長年にわたりレクリエーション・インストラクター養成にたずさわっている。また、京都府レクリエーション協会 で指導委員長として養成講習に携わっている。資格はレクリエーション・コーディネーター、スポーツレクリエーション指導 者、障害者スポーツ指導員中級、コミュニケーションファシリテーター、レクリエーション・サポーター			

《授業科目における学習内容》

レクリエーションの考え方や社会における意義について、レクリエーションの一般的なイメージとそのイメージをつくり上げた背景を
学び、今日の福祉領域を中心に変化してきたレクリエーションの捉え方を学ぶことにより、実践に必要な理論を理解し、介護現場
でのレクリエーションの必要性を認識する。さらに介護の現場で個別の状況に応じた援助ができる知識を身につける。

《成績評価の方法と基準》

試験(実技・発表・提出物):70% 出席評価点:20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基本のアイスブレイキング・ゲーム
(参考図書)楽しさをとおした心の元気づくり

《授業外における学習方法》

学生の地元や大阪府、さらに各市町村のレクリエーション協会が開催するイベントやボランティア活動に進んで参加し、高齢者・
障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を体験をすることで、自立支援につながるレクリエーションを体得す
る。

《履修に当たっての留意点》

高齢者・障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を理論を通して学ぶ。また模擬体験をすることで、自らが「楽
しむこと」「笑顔でいること」の大切さを学び、さらに自立支援につながるレクリエーションについて学ぶ。

授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を 通じての 到達目標	後期授業説明・資格取得説明より、授業の流れ、趣旨、内容が理解 できる	資格取得に関する プリント	ノートとファイルを準備
	各コマに おける 授業予定	後期授業説明・資格取得に関して・体育館利用上の注意事項 授業の進め方、評価の方法などを説明する		
第2回 講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	レクリエーションの概念と余暇生活、余暇時間の現状と課題が理解 できる	関係資料配布	返却した課題プリントの 間違い直し
	各コマに おける 授業予定	レクリエーションの概念と余暇生活、余暇時間に関して講義		
第3回 演習形式	授業を 通じての 到達目標	レクリエーション運動の歴史的背景が理解できる	関係資料配布	返却した課題プリントの 間違い直し
	各コマに おける 授業予定	レクリエーション運動の歴史とその背景について講義		
第4回 演習形式	授業を 通じての 到達目標	ホスピタリティについて理解できる	関係資料配布	返却した課題プリントの 間違い直し
	各コマに おける 授業予定	コミュニケーション・ワークの一つであるホスピタリティに関して講義		
第5回 演習形式	授業を 通じての 到達目標	ホスピタリティ・トレーニングについて理解できる	関係資料配布	第4回で配布したプリント の見直し
	各コマに おける 授業予定	提示された課題に対してホスピタリティを考えながら課題解決する		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション・インストラクターの役割が理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	レクリエーション・インストラクターの役割について講義		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化について理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化のちがいについて講義		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション援助計画APIEプロセスについて理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	レクリエーション援助計画APIEプロセスについて講義		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	より効果的な集団への援助のために全体的に配慮すべき点について理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	集団への援助のために全体的に配慮すべき点について講義		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	アイスブレイキングについて理解できる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレイキングについて体験を通してその理論と技術を学ぶ		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレイキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレイキング演習 1.		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレイキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレイキング演習 2.		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレイキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	アイスブレイキング演習 3.		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるアイスブレイキングの展開を理解できる	グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し・ノート整理
		各コマにおける授業予定	アイスブレイキング演習 4.		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション・インストラクターにとって必要なことは何かを確認することができる	関係資料配布	今までに配った資料の見直し・提出するノート準備
		各コマにおける授業予定	介護現場におけるレクリエーション・インストラクターの役割・まとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション技術(理論)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 火曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	松永 壮平	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームに介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

利用者・家族との関係作りのための対応や声かけなど実践的なコミュニケーション能力を習得する。援助場面でのコミュニケーションの基盤となる共感や重要等の態度、バイステックの7原則等の概念について理解を深める。利用者の特性に応じたコミュニケーションの具体的な対応や留意点を理解することが出来る。チーム内の記録、報告、カンファレンスにおける留意点や効果的な方法を知ることが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%、出席評価点:20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術 第2版

《授業外における学習方法》

復習として、普段から人と関わる際には授業で得た知識を実践し、体験を関連付けしておく。また、施設実習においても授業で得た知識や日頃の体験を活かし、さらに理解を深める。

《履修に当たっての留意点》

「コミュニケーション技術」は利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う科目です。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	話を聴く技法、受容と共感の大切さを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	傾聴のための技法、受容と共感の大切さを理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	傾聴・受容・共感についての理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	話を聴く態度、相づち、質問の技法を実践する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者の納得と同意を得る技法について理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	利用者とのコミュニケーションにおける「距離」とは何かを理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	言語コミュニケーションの機能を理解する。言葉以外を使った非言語・準言語コミュニケーションの役割を理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	これまで学んだことの小テスト実施。さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害への理解を深める。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者に応じたコミュニケーションを実践し、理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者に応じたコミュニケーションを実践し、理解を深める。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族とのコミュニケーションの重要性を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	家族の気持ちの理解、家族との信頼関係の構築について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族への相談・助言・調整の技法について理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	利用者や家族の意向を円滑に調整するためのコミュニケーション手順を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームケア、他職種連携のためのコミュニケーションの意義・目的を理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	報告・連絡・相談の意義・留意点を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームケア、他職種連携のためのコミュニケーション技術の理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	報告・連絡・相談の意義・留意点の理解を深めることが出来る。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	記録の意義・目的について理解する	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	記録の書き方・方法について理解する。記録の活用がケアの質の向上につながることを理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護職が行う会議の意義や目的、種類、役割を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	チーム内で情報を共有できるようにするための説明の技術について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションのあり方や重要性について考えをまとめることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて全15回の振り返りを実施する。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護の基本Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 木曜1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	北川 千尋	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームに、有料老人ホームなどに勤務した。			

《授業科目における学習内容》

「介護を必要とする人の生活を支援する」という観点から、介護を受けて生活する人およびその生活について学ぶことができる。介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護を受けて生活する方のフォーマルおよびインフォーマルな支援や、地域連携について学びを深めることができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ

《授業外における学習方法》

授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。また、特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。

《履修に当たっての留意点》

介護の基本という科目名の通り、介護福祉士を目指す上での理念や役割などについての理解が必要です。専門職としての能力を養うため、理解できていない状態で終えないよう、また見逃さないよう受講することを期待します。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活における構成や要素を理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	「生活」とは何かを示し、どのような特性をもっているのかを学び、「生活」についての基本を理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を取り巻く状況について理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	介護福祉士の誕生経緯や介護福祉士制度、また、社会福祉士及び介護福祉士法について理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士及び介護福祉士法についての理解を深めることができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	介護福祉士が守るべき義務規定の意味を理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	介護福祉を必要とする人たちの多様性を理解し、介護福祉職に関わる高齢者・障害者の事例を学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活ニーズや生活のしづらさ、その支援について理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	私たち自身の生活を見直すことで、その人らしさや生活ニーズの多様性、生活のしづらさの理解や支援について理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における専門職能団体の活動について理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	専門職能団体の意義と目的を理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の倫理について理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護に携わる人が持つべき職業倫理や、プライバシーに配慮した介護などを学び、日本介護福祉士会倫理綱領について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士の倫理について理解を深めることができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	事例を用いたグループワークを行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを学ぶことができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法におけるサービス等の種類や、居宅サービス・施設サービスなどのフォーマルサービスを理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護保険法における、地域密着型サービス・地域支援事業・障害者のためのフォーマルサービスについて理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるフォーマルサービスについて理解を深めることができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	障害者のためのフォーマルサービスについて理解する。フォーマルサービスについての復習を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉を必要とする人の生活を支えるインフォーマルサービスを理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	フォーマルサービスとの関係性や、一般的に想定されるインフォーマルサービスについて理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携について理解することができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域連携の意義と目的、ユニットケアについて理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携について理解を深めることができる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	地域福祉に関わる組織や団体、担い手について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする方の生活やその支援方法を理解できる。	・教科書 中央法規 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ ・配布資料 ・これまでの配布資料全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション技術(理論)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 火曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	松永 壮平	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームでの10年の勤務を経て、専任教員として科目を受け持つ。			

《授業科目における学習内容》

利用者・家族との関係作りのための対応や声かけなど実践的なコミュニケーション能力を習得する。援助場面でのコミュニケーションの基盤となる共感や重要等の態度、バイステックの7原則等の概念について理解を深める。利用者の特性に応じたコミュニケーションの具体的な対応や留意点を理解することが出来る。チーム内の記録、報告、カンファレンスにおける留意点や効果的な方法を知ることが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70%、出席評価点:20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書中央法規 最新「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術 第2版

《授業外における学習方法》

復習として、普段から人と関わる際や授業で得た知識を実践し、体験を関連付けしておく。また、施設実習においても授業で得た知識や日頃の体験を活かし、さらに理解を深める。

《履修に当たっての留意点》

「コミュニケーション技術」は利用者やその家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う科目です。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションの意義と目的を理解することが出来る。	教科書中央法規 「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	自己紹介、コミュニケーション技術の授業の到達目標の確認。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規 「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	マズローの基本的欲求段階層説、介護におけるコミュニケーションの目的について理解する。「傾く」を意識したコミュニケーションの実践。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規 「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	援助関係の特徴、自己開示とは、バイステックの7原則。「無視する」を意識したコミュニケーションの実践。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションの基本を理解することが出来る。	教科書中央法規 「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	援助関係を意識したコミュニケーション、傾聴、うなづき、相づち、繰り返し。「開かれた質問」と「閉じられた質問」を意識したコミュニケーションの実践。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションの基本技術を理解する。	教科書中央法規 「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	4回までの授業の復習。チームのコミュニケーションについて理解できる。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	受容、共感、自己覚知、言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本について理解できる。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	傾聴のための技法、受容と共感の大切さを理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	話を聴く態度、相づち、質問の技法を実践する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	動機づけ、ものの見方の多様性と固定概念について理解する。ネガティブな言葉をポジティブな言葉に置き換える。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの基本技術を理解する。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症と認知症の方とのコミュニケーションの方法について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	映画「明日の記憶」を視聴。若年性アルツハイマー型認知症の方と家族の支援について考える。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の特性に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	映画「明日の記憶」を視聴。若年性アルツハイマー型認知症の方と家族の支援について考える。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションを理解することが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション支援の基本となる留意点や考え方を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用者に応じたコミュニケーションの理解を深めることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	さまざまな障害がもたらすコミュニケーション障害を理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションのあり方や重要性について考えをまとめることが出来る。	教科書中央法規「介護福祉士養成講座」コミュニケーション技術、配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて全15回の振り返りを実施する。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	生活支援技術Ⅱ(理論)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 木曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	信田かほり	実務経験と その関連資格	高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。			
《授業科目における学習内容》						
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。 ・基本的介護技術を習得するにあたり、原理・原則を理解し、自立支援・要介護者の個々の生活に違いがあることを理解する。 						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験(70%) 出席評価点(20%) 平常評価点(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
中央法規 最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規 「書いて覚える！国家試験合格ドリル」 中央法規 「介護福祉士国家試験 わかる！受かる！合格テキスト」						
《授業外における学習方法》						
教科書の指定部分の予習、復習(小テスト勉強)						
《履修に当たっての留意点》						
・どの介助においても利用者の個別性を尊重し、ひとつひとつ根拠を持って理解すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食事介助の意義と目的について理解できる ・自立に向けた食事の介護において介護福祉士の役割が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・食事介助の意義と目的について(プリント15) ・自立した食事のあり方、食事の一連の流れについて(プリント15) ・食事における福祉用具について学習する。(プリント15) 			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた基本的な食事介助の技術が習得できる ・利用者の心身状態・状況に応じた適切な介助方法を身につける。 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた食事の基本的な介護技術について学習する。 ・食事における誤嚥予防とチームアプローチについて学習する。 ・脱水予防のための支援について学習する。(プリント16) 			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持における意義と目的が理解できる ・入浴介助の一連の流れが理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト(食事について) ・入浴と清潔保持の意義と目的について学習する ・利用者を主体とした安心、安全、安楽な入浴について学習する(プリント17) 			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴介助における福祉用具の使用方法、留意点が理解できる ・利用者を主体とした安全、安楽な入浴介助について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持における福祉用具について学習する。(プリント17) ・シャワー浴、部分浴について学習する(NO.18) 			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を主体とした安全、安楽な清潔保持について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔保持における介護技術について(清拭介助)学習する(プリント18) ・入浴時の変化と多職種の役割について学習する。(プリント18) 			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 排泄介護の意義と目的について理解できる 自立に向けた排泄介護について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト(入浴、清潔保持について) 排泄介護の意義と目的、特徴について学習する トイレ、ポータブルトイレ、差し込み便器、尿器について学習する(プリント19) 		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の心身の状況、状態に応じた適切な排泄方法を理解できる 利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点が習得できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト(排泄について) 紙おむつ、布おむつについて学習する 福祉用具の使用方法について学習する(プリント19) 		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に多い排泄機能障害について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 頻尿、尿排出障害、尿失禁について学習する(プリント20) 		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に多い排泄機能障害について理解できる 排泄における他職種との連携の必要性について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 便秘、下痢、便失禁について学習する(プリント20) 排泄介護における、他職種との連携について学習する。(プリント20) 		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における休息、睡眠の重要性について理解できる 睡眠と食事の関係性について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト(排泄障害について) レム睡眠とノンレム睡眠について学習する 快適な睡眠の一連の流れについて学習する 食事との関係について理解する(プリント21) 		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 安眠を促すための基本的な支援方法が理解できる 安眠を促すための環境について理解できる 休息、睡眠における他職種との連携の重要性について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士の行う安眠を促す支援について学習する 安眠を促す室内環境(温度、光、音、寝具)について学習する 睡眠障害と薬の種類、留意点について学習する(プリント21) 		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 終末期の介護の考え方や介護福祉職の役割について理解できる 終末期における意思決定のあり方について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト(休息、睡眠について) 終末期の介護の意義と介護の役割について学習する。 死の受容過程について学習する(プリント22) 		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 死後のケアについて理解する 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 死後のケア(エンゼルケア、グリーンケア)について学習する 人生の最期に寄り添う介護福祉士の役割について学習する(プリント22) 		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 後期に学んだ内容が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 終末期の介護について(小テスト) 後期まとめ、試験対策 		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 試験対策ができる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。後期試験に向けての勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 試験対策(プリント) 		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	生活支援技術 I (理論)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 木曜日1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	西山 貴子	実務経験とその関連資格	介護老人保健施設・病院の管理栄養士として勤務。その後、各種専門学校(調理師・製菓衛生士、介護福祉士等)、栄養士・管理栄養士養成短大・大学等にて講師。その他、特定保健指導、クリニックの栄養指導なども経験。			
《授業科目における学習内容》						
家庭生活の中での家事・調理の必要性を理解した上で、介護の基礎となる家庭生活・家庭経営に関する知識・技術を習得し、安全に支援できる知識・技術を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験:70%、出席評価点:20%、平常点:10点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I 中央法規						
《授業外における学習方法》						
・日頃から衣食住等の日常生活の物事に関心を持ち、普段どのようなものを食べているのか考え、健康管理を実践していきましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。 ・レポート等の提出物の提出期限に注意すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族の形態とその機能について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	家庭生活の営み(家庭生活とは、日本の家庭生活の変化)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	家計におかける収入と支出について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	家計設計の考え方①(家庭管理・家庭経済)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	クーリングオフや悪質商法の内容について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	家計設計の考え方②(消費者保護)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	家事の意義と目的や食生活の変化について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	自立に向けた家事の介護(家事の意義と目的、食生活の変化)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	炭水化物・たんぱく質・脂質について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	栄養素の理解①(五大栄養素:炭水化物・たんぱく質・脂質)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	無機質・ビタミンについて理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	栄養素の理解②(五大栄養素:無機質・ビタミン)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	消費期限・賞味期限の違いについて理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	食品の購入と選択(消費期限と賞味期限)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	食品添加物・食品の保存について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	食品衛生(食品添加物・食品保存)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	食中毒について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	食品衛生(食中毒)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事介助の基本や身体機能の変化について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	自立に向けた食事の介護(食事介助の基本・身体機能の変化について)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者への配慮(食品や調理・体調不良など)について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の食事と調理(食品や調理・体調不良による配慮)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活習慣病、糖尿病の食、脱水について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	疾患と食事(生活習慣病について、糖尿病、低栄養状態、脱水など)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	被服の機能、素材について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	被服生活の基礎知識(被服の機能、素材など)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	洗濯表示や漂白剤の種類と用途について理解する	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	洗濯表示(洗濯表示、漂白剤の種類と用途)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1回～14回のまとめ	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・これまでの授業の復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	まとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	生活支援技術Ⅱ(演習)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 月曜1~4限	教室名	介護実習室
担 当 教 員	松永・尾崎・信田	実務経験と その関連資格	(信田)高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。(松永)特別養護老人ホームでの勤務10年を経て、専任教員として科目を受け持つ。(尾崎)介護老人保健施設にて5年勤務を経て、専任教員として演習を担当。			
《授業科目における学習内容》						
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題・授業態度(10%)、出席(20%)、試験(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ(中央法規)、最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に授業に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。		最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅱ	使用教材82ページから152ページまでを読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	移動介護、体位交換、安楽な体位				
第2回	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力をつけることができる(知識と技術)		最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材117ページから120ページまでを読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	入浴介助 特殊浴槽				
第3回	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力をつけることができる(知識と技術)		最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材141ページから144ページまでを読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	入浴介助 洗髪 ケリーパット				
第4回	授業を通じての到達目標	入浴・清潔の目的は何か、清潔の保持が生活にどのような影響と意義をもつかを理解する(知識・技術の土台)入浴・清潔保持を安全・安楽に行い、尊厳を守り、自立支援を可能にするために欠かせないアセスメントの力が身につけている(知識と技術)		最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材134ページから141ページまでを読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	入浴介護 手浴・足浴				
第5回	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できている。		最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。	
	各コマにおける授業予定	排泄介護 オムツ交換(紙オムツ)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護 オムツ交換(布オムツ)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材227ページから244ページまでを読み、ベッドメイキングの練習をする。
		各コマにおける授業予定	排泄介護 ポータブルトイレ		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材178ページから186ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護 尿器・差込便器		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護 オムツ交換(紙オムツ)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な排泄方法を学ぶ。排泄の介護における根拠について、説明できる力を身につける。利用者の尊厳を遵守した排泄介護の留意点を習得できる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材187ページから193ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	排泄介護 オムツ交換(紙オムツ)小テスト		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材136ページから152ページまでを読んでおく。
		各コマにおける授業予定	移動介護 車椅子		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	快適な室内環境を整備するための基本的事項をおさえたうえで、加齢変化にもなっって注意が必要となる点を理解できる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅱ	使用教材46ページから55ページと今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	環境整備		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、利用者と介護者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安心・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術が習得できる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン(体温・血圧・脈拍・呼吸)移動介護 事例		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期に学んできた介護技術が理解できているか確認でき、理解を深めることができる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期に学んできた介護技術が理解できているか確認し、理解を深めることができる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ、最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護過程 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 金曜1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	上木大雅	実務経験と その関連資格	介護福祉士 介護老人保健施設にて5年勤務			

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座 介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程を展開する意味を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護過程の概要を理解し、自分自身の生活課程の展開をワークシートに記入する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活支援技術で学んだ内容を介護過程と繋ぎ合わせる		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の意義を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活における目的と目標の意義を理解するためにグループ討議する		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	アセスメントを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集→計画立案→実施→評価のサイクルを講義を通じて理解する		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の中の事実を理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	情報収集を進めていく上での事実をどのように捉えるか、事例を使いワークシートに記録する。記録の注意点も理解する。把握すべき事実とその事実をカテゴリーに分ける。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	講義でICFについての理解を深める		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議しまとめる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるICFを理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者の能力を見極める上で、どのような視点で観察するかグループワークで討議した内容を発表し学びを深める		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援(ケアプラン)を参考にアセスメントを解釈する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実際を学び理解することができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習施設で行われている支援(ケアプラン)を参考に支援の内容を解釈し方法を理解する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む 解説		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、介護過程の実際について学ぶことができる	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	介護計画事例問題に取り組む 解説		

学 科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	生活支援技術Ⅱ(理論)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期 金曜1限	教室名	501
担当教員	信田かほり	実務経験と その関連資格	高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。			

《授業科目における学習内容》

- ・利用者主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習する。
- ・基本的介護技術を習得するにあたり、原理・原則を理解し、自立支援・要介護者の個々の生活に違いがあることを理解する。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験(70%) 出席評価点(20%) 平常評価点(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規 最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」
中央法規 最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分の予習、復習(小テスト勉強)

《履修に当たっての留意点》

どの介助においても利用者の個別性を尊重し、ひとつひとつ根拠を持って理解すること

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援について理解できる ・生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(授業での注意点等説明、他己紹介) ・生活支援の基本的な考え方について学習する 		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFの視点をもって利用者の全体像・個別性を知ることの大切さが理解できる ・介護過程を重視し、根拠が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援のポイントについて学習する ・生活支援と介護過程について学習する ・ICFの視点に基づく生活支援について学習する 		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援におけるチームアプローチの重要性について理解できる ・チームアプローチに関わる職種とその役割、連携の方法について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とチームアプローチについて学習する ・その人らしい生活について(グループワーク) 		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備の重要性について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備の意義・目的について学習する(プリント4) ・居室の環境(室内気候・照明・寝具)について学習する(プリント4) 		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けての移動の介護について理解できる ・ボディメカニクスの基本、重要性について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト①(環境整備について) ・自立した移動のあり方や廃用症候群・麻痺について学習する。 ・ボディメカニクスを応用した介助方法について学習する 		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・移動、移乗におけるアセスメントについて理解できる ・安楽な体位について理解できる ・体位変換の重要性について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト②(ボディメカニクスについて) ・安楽な体位について学習する ・褥瘡の原因・症状・予防法について学習する 		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、安楽な移動における福祉用具について理解できる ・福祉用具の種類、使用方法について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト③(安全、安楽な体位について) ・褥瘡の後発部位について学習する(プリント7) ・車椅子と杖の使用方法について学習する(プリント8) 		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、安楽な移動における福祉用具について理解できる ・移動に関する福祉用具の種類、使用方法について理解できる 	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト④(車いす) ・杖歩行について学習する ・福祉用具の使用方法・留意点について学習する 		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活における身じたくの意義と重要性について理解できる ・身じたくに必要な介護技術の基本が理解できる ・身じたくに関する介護技術の根拠が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑤(杖歩行・その他の福祉用具) ・身じたくの意義と目的について学習する ・身じたくの介助について学習する(洗顔、洗髪、髭の手入れ) 		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身じたくに必要な介護技術の基本が理解できる ・身じたくに関する介護技術の根拠が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・身じたくの介助について学習する(爪の手入れ、耳の清掃、化粧、皮膚の清潔) ・利用者の状態に応じた整容の介助を学習する 		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアに必要な介護技術の基本が理解できる ・口腔ケアに関する介護技術の根拠が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑥(身じたくについて) ・口腔ケアの意義と効果、種類について学習する ・口腔ケアのポイントについて学習する 		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアに必要な介護技術の基本が理解できる ・口腔ケアに関する介護技術の根拠が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケア実施前、実施後のポイントについて学習する ・義歯の種類と装着方法・保管方法について学習する 		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱に必要な介護技術の基本が理解できる ・衣服の着脱に関する介護技術の根拠が理解できる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。小テスト内容の勉強をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト⑦(口腔ケアについて) ・衣服の着脱の意義について学習する ・衣服の種類と衛生管理について学習する ・利用者の状態に応じた着脱介助について学習する 		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に学んだ内容が理解できている 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の内容まとめ、復習 		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に学んだ内容が理解できる ・前期試験に向けての対策ができる 	最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの振り返り ・前期試験内容の発表、対策 		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	生活支援技術Ⅱ(演習)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 月曜1~4限	教室名	介護実習室
担 当 教 員	松永・尾崎・信田	実務経験と その関連資格	(信田)高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。(松永)特別養護老人ホームでの勤務10年を経て、専任教員として科目を受け持つ。 (尾崎)介護老人保健施設にて5年勤務を経て、専任教員として演習を担当。			
《授業科目における学習内容》						
尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの視点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を学習し、実践できるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題・授業態度(10%)、出席(20%)、試験(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ(中央法規)、最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に授業に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	介護技術の授業内容について理解できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材に目を通し、どのような内容の授業なのか把握する。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション・グループ分け			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	休息・睡眠環境を整える方法(ベッドメイキング等)を理解し、根拠を説明できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材第5章 休息・睡眠の介護を讀んでおく。	
		各コマにおける授業予定	環境整備 シーツ交換 ボディメカニクス			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解できる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を讀んでおく。	
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法 体位交換(上方移動・下方移動・水平移動・仰臥位から側臥位(対面法・背面法))			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解を深めることができる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術Ⅰ	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を讀んでおく	
		各コマにおける授業予定	①運動・移動の技法 体位交換(上方移動・下方移動・水平移動・仰臥位から側臥位(対面法・背面法)復習 ②ベッドメイキング復習・臥床時のベッドメイキング			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ベッドメイキングのポイントを理解し、ボディメカニクスを活用した実践ができる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術Ⅱ	使用教材第5章 休息・睡眠の介護を讀んでおく	
		各コマにおける授業予定	ベッドメイキング試験			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法 体位交換(起き上がり・長座位・端座位・立位)		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	休息・睡眠環境を整える方法(ベッドメイキング等)を理解し、根拠を説明できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	車椅子での外出介護、杖歩行、視覚障害者体験運動		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、理解できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	・移動の技法 ベッドと車椅子間の移動		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I	使用教材第5章 自立に向けた移動の介護を読んでお
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法 立位・起き上がりの介助		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを応用した、介護者と介助者の身体的負担が少ない介助方法を学ぶ。介護の原則「安全・安楽、自立支援、個人の尊厳」にのっとり、利用者が安心して活動・運動するための基本技術を学び、実践できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術 II	使用教材第1章 自立に向けた身じたくの介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	運動・移動の技法 立位・起き上がりの試験		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	利用者の思いを確認した介護ができる。利用者の健康状態や状況を把握し、利用者にあった介護方法が選択できる。身じたくに必要な介護技術の基本が理解できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座7 介護技術 II	使用教材第1章 自立に向けた身じたくの介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	着脱の介護 前開き・かぶり、ズボン・ゆかたの着脱法		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ介護技術の基本を、利用者の状態に合わせて実践ができるようになる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I 最新 介護福祉士養成講座7 介護技術 II	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	事例課題復習 /衣類の介護 ゆかたの着脱(説明)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ介護技術の基本を活用し、留意点や根拠を理解した上で手順を考え、実践ができる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I 最新 介護福祉士養成講座7 介護技術 II	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	事例課題試験		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	自立した食事のあり方について理解する。さらに自立した食事の一連の流れを理解し、自立に向けた食事の介護をするために介護福祉士がすべきことを理解し、考える事ができる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I	使用教材第2章 自立に向けた食事の介護を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	環境・身体の状態に応じた食事介助		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ介助を振り返り、復習・実践を通して理解を深めることができる。	最新 介護福祉士養成講座6 介護技術 I、最新 介護福祉士養成講座7 介護技術 II	今まで学んできた使用教材の内容を確認しておく。
		各コマにおける授業予定	前期の振り返り・介護技術の復習・前期試験について		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	認知症の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 木曜1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	石坪 浩規	実務経験と その関連資格	介護老人保健施設 介護職15年勤務 特別養護老人ホーム 介護職2年勤務			
《授業科目における学習内容》						
認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得できる。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(20%)レポート課題、参加度(10%)、試験(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
認知症について基本的な知識と技術を備えることができるよう目標をもって取り組むこと						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての 到達目標	認知症の全体像をとらえる。認知症の特徴を理解できる。		最新・介護福祉 士養成講座13 認知症の理解	使用教材2ページから1 0ページまでを読んでお くこと。	
	各コマに おける 授業予定	認知症とは何か				
第2回	授業を通じての 到達目標	脳の構造機能と症状の関係を理解できる。		最新・介護福祉 士養成講座13 認知症の理解	使用教材12ページから 18ページまでを読んで おくこと。	
	各コマに おける 授業予定	脳のしくみ①				
第3回	授業を通じての 到達目標	認知症と区別するべき状態を理解する。老化にともなう脳の変化 を知り、認知症との関連を理解できる。		最新・介護福祉 士養成講座13 認知症の理解	使用教材18ページから 23ページまでを読んで おくこと。	
	各コマに おける 授業予定	脳のしくみ②				
第4回	授業を通じての 到達目標	不安・喪失感を抱く理由を理解する。視点取得という認知機能を フル活用したケアについて理解できる。		最新・介護福祉 士養成講座13 認知症の理解	使用教材25ページから 28ページまでを読んで おくこと。	
	各コマに おける 授業予定	認知症の人の心理				
第5回	授業を通じての 到達目標	中核症状とは何かを理解する。代表的な中核症状と脳の病変部 位との関係を理解できる。		最新・介護福祉 士養成講座13 認知症の理解	使用教材32ページから 35ページまでを読んで おくこと。	
	各コマに おける 授業予定	中核症状の理解①				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中核症状とは何かを理解する。代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材32ページから39ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	中核症状の理解②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の生活障害の重要性を理解する。IADL、ADL、参加(家庭内と社会)の障害を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材40ページから45ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	生活障害の理解		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	BPSDの定義と医学モデルであることを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材47ページから54ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	BPSDの理解①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	BPSDのさまざまな背景要因を理解する。個々のBPSDの概要を知り、理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材47ページから60ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	BPSDの理解②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の診断要件を理解する。認知機能と重症度の評価法を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材62ページから70ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の診断と重症度		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症など認知症の原因疾患の病態や症状を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材72ページから78ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の原因疾患と症状・生活障害①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	前頭側頭型認知症や治療可能な認知症など認知症の原因疾患の病態や症状を理解する。原因疾患により症状や経過も異なることを理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材72ページから85ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の原因疾患と症状・生活障害②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルツハイマー型認知症治療薬の作用機序や副作用、効果の限界を理解する。BPSDに対して用いられる薬の作用・副作用を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材87ページから91ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の治療薬		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症予防とは発症・進行を遅らせることであると学び、さまざまな危険因子・保護因子を理解できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材93ページから96ページまでを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の予防		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学んだ内容について理解ができているか再確認できる。	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解	使用教材2ページから97ページまでの内容を復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	試験対策・まとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	障害の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 火曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	松田 若那	実務経験と その関連資格	社会福祉士を取得後、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務。その後、相談支援専門員として児童の計画相談業務に従事。			
《授業科目における学習内容》						
障害の概念、障害福祉の基本理念、障害者福祉制度を学ぶことで、介護福祉職が障害のある人と向き合うための基礎的知識を身につける。また、障害福祉を取り巻く最新の動向を理解し、障害のある人の自立に向けた生活支援の視点について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験60%、授業態度10%、出席20%、振り返りシート10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 (中央法規出版)						
《授業外における学習方法》						
テキストやレジュメに出てきた重要な語句、説明について各自で考え、工夫して覚えるようにする。とくに、他の科目にも出てくる語句は重要なため、とくに意識して覚えるようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士として関わる対象は高齢者だけでないことを認識し、障害の理解をする。ひとつの科目としてみるのではなく、他の科目と関連させながら学習し、幅広い知識や関心を深めていくようにし、イメージする力をつけてほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	障害とは何かを考えることができる。聴覚障害の特性について説明することができるようになる。		教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション。障害とは何かを考える。聴覚障害の特性について理解する。				
第2回	授業を通じての到達目標	言語障害、重複障害の特性について説明することができるようになる。		教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる	
	各コマにおける授業予定	言語障害、重複障害の特性について理解する。				
第3回	授業を通じての到達目標	障害のある人の心理について説明することができるようになる。		教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる	
	各コマにおける授業予定	障害のある人の心理について理解する。				
第4回	授業を通じての到達目標	知的障害について説明することができるようになる。		教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる	
	各コマにおける授業予定	知的障害の特性について理解する。				
第5回	授業を通じての到達目標	精神障害の特性について説明できるようになる。		教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる	
	各コマにおける授業予定	精神障害の特性について理解する。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害について説明することができるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	高次脳機能の特性について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	内部障害の特性や基礎知識について理解し、説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	内部障害の特性や基礎知識について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内部障害の特性に応じた支援について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	内部障害の特性に応じた支援について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達障害の特性について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	発達障害の特性について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	難病の定義や、基礎的知識を理解し、説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	難病の定義や、基礎的知識を理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域のサポート体制について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	地域のサポート体制について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームアプローチについて説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	チームアプローチのあり方や他職種連携について学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族への支援方法について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	家族への支援方法について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族の介護力の評価と介護負担の軽減について説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一読してくる
		各コマにおける授業予定	家族の介護力の評価と介護負担の軽減について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて理解し、当該科目における理解を深められる。	教科書	教科書の当該箇所を一読してくる

15 回	表 形 式	各コマに おける 授業予定	障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて学び、当該科目 における理解を深める。	教科書 配布資料	教科書の当該箇所を一 読してくる
---------	-------------	---------------------	---	-------------	---------------------

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	発達と老化の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 木曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	牧 雪枝	実務経験と その関連資格	病院にて臨床検査技師、臨床病理士として勤務。主業務は生理機能検査、病理学検査などを行っていた。			
《授業科目における学習内容》						
人間の成長と成熟および発達の違いを理解し、発達理論における各段階の発達課題を説明することができる。 身体的・精神的・社会的機能の発達と老化との関連を理解し、様々な老化学説を述べることができる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目終了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・教科書:『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 中央法規						
《授業外における学習方法》						
教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験の合格を目標とすると同時に、人の発達と老化に関する知識を習得し質の高い介護を提供できる福祉職を目指し頑張りましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	生涯発達の段階について説明できる。		・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	成長・発達の考え方について講義 『発達の概念』について理解する。				
第2回	授業を通じての到達目標	環境的要因の多様性について説明できる。		・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	成長・発達の考え方について講義 『遺伝的要因と環境的要因』を理解する。				
第3回	授業を通じての到達目標	スキヤモンの発達曲線、発達の臨界期について説明できる。		・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	成長・発達の原則・法則について講義 『発達の順序性と方向性』について理解する。				
第4回	授業を通じての到達目標	成長・成熟に影響する環境的および遺伝的要因について説明できる。		・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	成長・発達に影響する要因について講義 『発達に影響する緒要因』を理解する。				
第5回	授業を通じての到達目標	ピアジェ、エリクソン、バルテスの発達理論について説明できる。		・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	発達理論について講義 『子どもの発達と教育の発展』について理解する。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ハヴィガーストによる発達段階と発達課題について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発達段階と発達課題について講義『各発達段階の概要』について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習障害、注意欠陥多動性障害などについて説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	発達障害者支援法について講義『発達障害の症状および理解と対応』について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	各発達段階に特徴的な疾病や障害について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	身体的機能の成長と発達について講義『身体的な成長と発達および運動機能発達の特徴』について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ピアジェの認知発達理論について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	心理的機能の発達について講義『言語の発達過程』を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	愛着や道徳性について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会的機能の発達について講義『社会性の発達』について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	生物-心理-社会モデルからみた老年期について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老年期の定義について講義『高齢者の定義』を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化学説について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老化について講義『生理的老化の特徴』について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	エリクソン、ペックによる老年期の心理的葛藤について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老年期という発達段階について講義『さまざまな発達理論における老年期』について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	フロイトの悲観過程、セクシャリティとその権利について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	人格と尊厳、老いの価値について講義『喪失体験とライフイベントとの関連』について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢化によって生じる老年期の変化について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老年期をめぐる今日的課題について講義『各世代の高齢者が生きてきた時代背景』について理解する。		

学 科	介護福祉科 I 部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	こころとからだのしくみ I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 水曜1.2限	教室名	401・402
担 当 教 員	武部 奈緒子	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームに介護福祉士として勤務。身体介護や生活介助を行っていか か医療に興味を持ち、保健師・看護師の資格を取得し、大阪府内の病院にて看 護師として勤務していた。現在、特別養護老人ホームの看護師として勤務。			
《授業科目における学習内容》						
からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるの か、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠を持って生活援助の妥当性について説明することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規) からだのしくみ事典(成美堂出版)						
《授業外における学習方法》						
授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術などの他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の 困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造・機能について振り返りを行い、知識として身につけることができる	・教科書 最新介護福祉士 養成講座 こころと からだのしくみ(中 央法規) ・配布資 料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	1年前期の講義振り返り①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造・機能について振り返りを行い、知識として身につけることができる	・教科書 最新介護福祉士 養成講座 こころと からだのしくみ(中 央法規) ・配布資 料	・前期配布プリントを事前に復習しておくこと	
		各コマにおける授業予定	1年前期の講義振り返り②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食・嚥下に関わる解剖生理しを理解し、人間に必要な不可欠な栄養素とそのはたらきを知ることができる	・教科書 最新介護福祉士 養成講座 こころと からだのしくみ(中 央法規) ・配布資 料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第1節 食事のしくみ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢や疾病による心身の機能低下が食事にどのような影響を及ぼすか理解することができる	・教科書 最新介護福祉士 養成講座 こころと からだのしくみ(中 央法規) ・配布資 料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事での必要な観察事項について理解することができる 食事における緊急性を伴う異常について学び、医療職との連携の重要性について理解することができる	・教科書 最新介護福祉士 養成講座 こころと からだのしくみ(中 央法規) ・配布資 料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと	
		各コマにおける授業予定	第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	必要な情報を抜粋、アセスメントし、具体的援助内容を発表することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第5章 食事に関連したころとからだのしくみ 事例問題演習(グループワーク)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄に必要な行為の理解、排便と排泄のしくみと正常について理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章 排泄に関連したころとからだのしくみ 第1節 排泄のしくみ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢や疾病による心身の機能低下が排泄にどのような影響を及ぼすか理解することができる□	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章 排泄に関連したころとからだのしくみ 第2節 心身機能の低下が排泄に及ぼす影響		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化に伴う機能低下について理解することができる 観察ポイントや観察方法、記録、他者との連携の重要性を学ぶことができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章 排泄に関連したころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	必要な情報を抜粋、アセスメントし、具体的援助内容を発表することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第7章 排泄に関連したころとからだのしくみ 事例問題(グループワーク)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠を引き起こす仕組み、良質な睡眠のための環境条件や生活習慣について学ぶ	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章 休息・睡眠に関連したころとからだのしくみ 第1節 休息・睡眠のしくみ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢が睡眠に及ぼす影響を理解し、睡眠障害の種類と、それぞれの特徴について学ぶことができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章 休息・睡眠に関連したころとからだのしくみ 第2節 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠状態を確認する方法について学び、問題がある場合の対応方法を知ることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章 休息・睡眠に関連したころとからだのしくみ 第3節 変化の気づきと対応		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	必要な情報を抜粋、アセスメントし、具体的援助内容を発表することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	第8章 休息・睡眠に関連したころとからだのしくみ 事例問題(グループワーク)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事、排泄、休息・睡眠に関連したころとからだのしくみについて振り返りを行い、知識を深めることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・後期授業内容の振り返りを行う事前に行っておくこと ・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	1年後期授業まとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	障害の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 火曜3・4限	教室名	401・402
担 当 教 員	松田 若那	実務経験とその関連資格	社会福祉士を取得後、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務。その後、相談支援専門員として児童の計画相談業務に従事。			
《授業科目における学習内容》						
障害の概念、障害福祉の基本理念、障害者福祉制度を学ぶことで、介護福祉職が障害のある人と向き合うための基礎的知識を身につける。また、障害福祉を取り巻く最新の動向を理解し、障害のある人の自立に向けた生活支援の視点について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験60%、授業態度10%、出席20%、振り返りシート10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 (中央法規出版)						
《授業外における学習方法》						
テキストやレジュメに出てきた重要な語句、説明について各自で考え、工夫して覚えるようにする。とくに、他の科目にも出てくる語句は重要なため、とくに意識して覚えるようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士として関わる対象は高齢者だけでないことを認識し、障害の理解をする。ひとつの科目としてみるのではなく、他の科目と関連させながら学習し、幅広い知識や関心を深めていくようにし、イメージする力をつけてほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害とは何かを考えることが出来る。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション。事例をもとに、障害とは何かについて考える。障害のとらえ方について、利用者・支援者双方の立場から考える。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと	
		各コマにおける授業予定	ノーマライゼーションの思想あゆみ、意義について理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと	
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの意義について理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。③	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと	
		各コマにおける授業予定	インクルージョンやその他の理念(エンパワメント、ストレングス)について理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉の基本理念について説明できるようになる。④	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと	
		各コマにおける授業予定	世界の障害福祉の流れ(世界人権宣言から国際障害者年、障害者権利条約まで)について理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の概念(3つのモデル)について説明できるようになる。①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害の3つモデル(医学モデル・社会モデル・統合モデル)について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の概念(ICFとICIDH)について説明できるようになる。②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	ICFとICIDHについて変更のポイントや実践への展開について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害の概念(法的定義)について説明できるようになる。③	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者の現状を理解する。障害者の法的定義と各障害者手帳について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。①	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者総合支援法の成立までの流れについて理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。②	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者総合支援法に基づくサービスについて理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。③	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者差別解消法について理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。④	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者虐待防止法について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者福祉に関する制度について説明できるようになる。⑤	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害者の就労支援について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者の基礎的理解と特性に応じた支援について説明できるようになる。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	視覚障害の状態、特性、支援のあり方を理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期各テーマについて振り返り、当該科目への理解を深める。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	障害の概念と障害者福祉の基礎理念、障害福祉に関する制度について理解を深める。		

学 科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こころとからだのしくみ I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期 水曜1.2限	教室名	501,502教室
担当教員	武部 奈緒子	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームに介護福祉士として勤務。身体介護や生活介助を行っていきななかで医療に興味を持ち、保健師・看護師の資格を取得し、大阪府内の病院にて看護師として勤務していた。現在、特別養護老人ホームの看護師として勤務。			
《授業科目における学習内容》						
からだの基本的なしくみの理解、こころがからだに及ぼす影響について学ぶ。また、生活の障害はどのようなメカニズムで生じるのか、それにどのように対応するのかを学び、学生が根拠を持って生活援助の妥当性について説明することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規) からだのしくみ事典(成美堂出版)						
《授業外における学習方法》						
授業で学んだ内容をノート等にまとめ、生活援助技術などの他科目と関連づけて学習できるよう復習しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	こころとからだのしくみの講義内容について理解する 身体の名を理解し、知識として身につけることができる		・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	教科書の目次を見て学ぶ 内容を理解しておくこと	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション 身体部位の名称				
第2回	授業を通じての到達目標	人間のこころとからだの関係性について理解することができる		・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・前回配布プリントを事前に復習しておくこと	
	各コマにおける授業予定	身体の名小テスト① こころとからだの関係性について理解する。心身の調和 生命に維持と恒常性のしくみ 細胞・遺伝 身体部位の名称				
第3回	授業を通じての到達目標	中枢神経系・末梢神経系について解剖や生理的機能を理解することができる		・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	身体の名小テスト② からだのしくみについて理解する 脳・神経				
第4回	授業を通じての到達目標	骨の構造や生理的作用について理解することができる		・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	脳・神経小テスト① からだのしくみについて理解する 骨・筋肉				
第5回	授業を通じての到達目標	関節・骨格筋の名称や種類、働きについて理解することができる		・教科書 最新介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと	
	各コマにおける授業予定	骨・筋肉小テスト① からだのしくみについて理解する 骨・筋肉				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器(視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	骨・筋肉小テスト② からだのしくみについて理解する 感覚器(視覚器・平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚)			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の名称や肺の構造、呼吸のしくみについて理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	感覚器小テスト からだのしくみについて理解する 呼吸器系			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器管について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	呼吸器系小テスト からだのしくみについて理解する 消化器系(消化管・消化腺)			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器腺について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	消化器小テスト① からだのしくみについて理解する 消化器系(消化管・消化腺)			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿の分泌・排泄に関する臓器の解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	消化器小テスト② からだのしくみについて理解する 泌尿器(腎臓・尿路)			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖器についての解剖や生理的機能について理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	泌尿器小テスト からだのしくみについて理解する 生殖器			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌(ホルモン)について解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	生殖器小テスト からだのしくみについて理解する 内分泌			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓の解剖や大循環・小循環のメカニズムについて理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	内分泌小テスト からだのしくみについて理解する 循環器			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・体液・リンパについて解剖や生理的機能を理解することができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	循環器小テスト からだのしくみについて理解する 血液・体液・リンパ			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活支援のために必要な、人間のからだの解剖や生理的機能、からだのメカニズムについて理解を深めることができる	・教科書 最新介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ(中央法規)・配布資料	・後期授業内容の振り返りを行う事前に行っておくこと・授業終了時に提示する課題を実施しておくこと
	各コマにおける授業予定	血液・体液・リンパ小テスト 前期講義の振り返り			

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	医療的ケア I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 火曜1・2限	教室名	401・402
担 当 教 員	海藤 智子	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年			

《授業科目における学習内容》

医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70% 出席評価点20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版 2019.

《授業外における学習方法》

授業における小テストや配布プリント・授業内容の復習をしっかりと行い授業に臨む

《履修に当たっての留意点》

医療的ケアは利用者に直接的な影響を与えるケア技術である。正しい知識・技術の取得を持って安全な医療的ケアを行える様に介護福祉士を目指す。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医行為とはどういうことか、その法律の理解などについて説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション・医療的ケアとは・医行為について理解できる。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士による喀痰吸引制度と「医療的ケア」について説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	①医療倫理について理解できる。②喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引などの背景・その他の制度について理解できる。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士による喀痰吸引制度と「医療的ケア」について説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	喀痰吸引制度・医療的ケアと喀痰吸引などの背景・その他の制度について理解できる。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	①安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・リスクマネージメントの考え方・ヒヤリハット、アクシデントの報告について理解できる。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	標準予防策・感染予防行動の必要性を理解し利用者の療養環境を整えることについて説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	スタンダード・プリコーションの必要性・介護福祉士の健康管理、感染予防対策の必要性について理解できる。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	標準予防策・感染予防行動の必要性を理解し利用者の療養環境を整えることについて説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	スタンダード・プリコーションの必要性・介護福祉士の健康管理、感染予防対策の必要性について理解できる。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	標準予防策・感染予防行動の必要性を理解し利用者の療養環境を整える事について説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	療養環境の清潔・消毒方法について理解できる。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	標準予防策・感染予防行動の必要性を理解し利用者の療養環境を整える事について説明できる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	療養環境の清潔・消毒方法について理解できる。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養概論を学ぶことで消火器系の役割・機能、消化・吸収のしくみを説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 消化器官のしくみと役割、機能について 嚥下のしくみについて 		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化・吸収とよくある消化器症状について説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 消化・吸収について よくある消化器の症状について 		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養とは何かを知り、栄養を注入する際に必要な知識について説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養が必要な状態について 経管栄養のしくみと種類、経管栄養剤の種類、投与方法について 		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養実施時の留意点について説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養の実施時の留意点について 子供の経管栄養について 		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養に関係する感染予防について説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	経管栄養を行っている状態の感染予防と口腔ケアの重要性について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養を受ける利用者と家族の気持ちと対応、説明と同意について説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 本人、家族の経管栄養に対する気持ちにそった対応と留意点について 経管栄養の実施に関する説明と同意について 		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認や急変、事故発生における対応について	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> 経管栄養により生じる危険の種類について ヒヤリハット・アクシデントの実施と報告について 緊急を要する症状について 		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護総合演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期 金曜日2限目	教室名	501
担当教員	上木大雅/尾崎朱理/信田かほり	実務経験と その関連資格	(上木・尾崎)介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務。 (信田)高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。			
《授業科目における学習内容》						
介護福祉実習の意義と目的が理解でき、実習に向けての準備、実習中の取り組みを考える。福祉施設の理解と多職種連携が理解できる。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題(70%)参加度(30%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規) 滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容に関わる確認プリントを実施するので、復習しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
実習に必要な知識、技術、介護過程の展開の能力を身につけることができるよう、意欲的に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習 I-①で必要な書類の清書ができる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	使用教材40から56ページまでを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	実習 I-①書類作成			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	事前オリエンテーションの準備、当日の流れについて理解できる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規) 滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」	使用教材40から56ページまでを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	事前オリエンテーションについて、電話のかけ方			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集について理解できる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	使用教材241から242ページまでを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	情報収集について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	良い例、悪い例を見てカンファレンスの流れについて学ぶことができる。校章授与式に参加し、実習への心構えができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第3版(中央法規)	使用教材210から236ページまでを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	カンファレンスについて、校章授与式			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実習の意義と目的を再確認する。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)	使用教材57から63ページまでを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	実習直前指導			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習後の学習の意義と目的を理解する。実習後の学習内容を理解することができる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材64から75ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	実習後の振り返り、実習報告会の準備		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習後の学習の意義と目的を理解する。実習後の学習内容を理解することができる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材64から76ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	実習報告会		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	種類やサービス内容、利用者像など理解する。支援の視点を理解する。実習で学ぶべきポイントを理解できる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第3版 (中央法規)	使用教材112から148ページまでを読んでおく
		各コマにおける授業予定	高齢者施設について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習先について調べ、実習目標を考えることができる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材112から148ページと、40から56までを読んでおく
		各コマにおける授業予定	施設配属発表、施設概要を調べる、実習目標を考える		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習 I -①で自分で書いた日誌を見直し、次回の実習の課題を明確にすることができる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材40ページから66ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	日誌の振り返り		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習書類の清書の提出ができる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材40ページから66ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類の完成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の展開を軸にした介護実習の目的と目標を理解できる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開、情報収集について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の展開を軸にした介護実習の目的と目標を理解できる。ほかの科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをふくらませる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開、情報収集、情報の分析		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の展開を軸にした介護実習の目的と目標を理解できる。演習を通じて、「自分が担当する利用者」という当事者意識のもとに介護過程を展開する	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開、情報収集、情報の分析、計画の立案		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習 I -①でのカンファレンスを振り返り、次回の実習の課題を明確にできる	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材238ページから248ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	カンファレンスについて		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	介護総合演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	前期 金曜日2限目	教室名	501
担当教員	上木大雅/尾崎朱理/信田かほり	実務経験と その関連資格	(上木・尾崎)介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務。 (信田)高齢者施設にて約8年間、介護福祉士として勤務。専門学校にて8年専任教員として勤務し、非常勤講師としても演習の授業を担当。			
《授業科目における学習内容》						
介護福祉実習の意義と目的が理解でき、実習に向けての準備、実習中の取り組みを考える。福祉施設の理解と多職種連携が理解できる。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題(70%)参加度(30%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習第2版(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容に関わる確認プリントを実施するので、復習しておくこと						
《履修に当たっての留意点》						
実習に必要な知識、技術、介護過程の展開の能力を身につけることができるよう、意欲的に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士養成教育全体のなかで「介護総合演習」がどのような位置づけになっているか理解する。介護実習の意義と目的を理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材2から27ページ までを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	介護総合演習について、介護福祉実習について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	特別養護老人ホーム、老人保健施設におけるサービス内容や利用者像などを理解する。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材112から135 ページまでを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	特別養護老人ホーム、老人保健施設について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実習の取り組み、実習報告会での発表方法について学び、実習に活かせる知識を習得することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材72から74ページ までを読んでおく	
		各コマにおける授業予定	2年生実習報告会に参加			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職フェアに参加し職業理解を深めることができる。	就職フェア冊子	就職フェアの冊子に目を通し、話を聞いてみたい施設について調べ学習を行う	
		各コマにおける授業予定	就職フェアについて			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	学校周辺のバリアフリーについて調べ、まとめる力を習得する。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	バリアフリーについて調べておく。	
		各コマにおける授業予定	学校周辺のバリアフリーについて調べ、模造紙にまとめる			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	学校周辺のバリアフリーについて発表し、他のグループから記入してもらった感想シートから学んだことを踏まえてグループごとに発表の振り返りを行い、考察できるようになる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	グループごとに発表内容について確認し、発表に向けて練習をする。
		各コマにおける授業予定	学校周辺のバリアフリーについてまとめたものをグループごとに発表しあう。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	施設見学へ行く目的、施設の特徴について理解ができるようになる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	施設見学に行く施設の種類について調べ学習を行い、理解しておく。
		各コマにおける授業予定	施設見学について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	施設の特徴について理解できる。	施設パンフレット	施設見学に行く施設について調べ学習を行う。
		各コマにおける授業予定	施設見学		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習前の意義と目的、実習に臨む態度や姿勢、実習後の学習の意義と目的を理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材40ページから75ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	介護実習準備、実習中、実習後の学び		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習書類、実習日誌を書く目的、書き方を学び、書ける力を身につける。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材40ページから76ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習日誌の書き方		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習施設について調べ学習を行い、施設の特徴を理解できる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材40ページから77ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習施設の発表、実習施設を調べる。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習へ行く目的を理解し、目標を立て、実習をまえにしての下書きができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習目標、実習を前にして(下書き)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習目標、実習を前にしての清書を提出することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習目標、実習を前にして(清書)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習書類の種類を把握し、下書きを行うことができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類、下書き		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習書類を確認してもらい、清書を提出することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習第2版 (中央法規)	使用教材210ページから233ページまでを読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	実習書類清書、事前学習について		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	介護実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	96 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	後期 10月	教室名	実習施設
担当教員	海藤 智子 他	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年			
《授業科目における学習内容》						
学校で学んだ理論や方法を施設において体験し、個々の利用者に合わせた日常生活の介護の応用能力を養う。						
《成績評価の方法と基準》						
実習評価表・実習日誌記録物:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習、実習と記録 滋慶教育科学研究所						
《授業外における学習方法》						
今まで学んだ授業内容の復習及び自己学習を自ら行う。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士についての職業理解ができ、必要な知識や技術を身につけることができるよう、意欲的に取り組む。利用者の自助におけるニーズと介護の機能ならびに施設職員の一般的な役割について学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護実習 I の流れ、達成すべき目標について理解できる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所		使用教材の指定部分を 事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	介護実習 I の流れと目標について			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場で求められる介護福祉士像を把握し、自分の課題について考えることができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所		使用教材の指定部分を 事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	求められる介護福祉士像			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の「できること」に目を向けることの大切さについて理解できる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所		使用教材の指定部分を 事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	ICFの視点			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	様々なコミュニケーションの方法について学ぶことができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所		使用教材の指定部分を 事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについて			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	一人ひとりに合わせたコミュニケーション方法について理解できる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所		使用教材の指定部分を 事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについて			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個別支援を尊重した自立支援のありかたを理解し、その人らしさを引き出す支援について学ぶことができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	個別ケア、その人らしさを支える支援について		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	記録や情報収集用紙、観察、コミュニケーションを通して情報を収集する方法について理解できる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	情報収集について		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の生活史を理解し、尊敬の念をもち、コミュニケーションを行うことの重要性について学ぶことができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	生活史からみえてくる情報について		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	老化に伴う変化や障害が日常生活に及ぼす影響を理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	日常生活の諸問題について		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	安全対策、事故防止の方法が分かる。残存能力を活かし、日常生活能力向上のための援助方法について考えることができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	安心安全を考慮し、残存機能を活かした日常生活の自立への援助方法を学ぶ。		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	老いの受容、生き甲斐、性、自己実現について考えることができる。施設における日常生活の自立(QOL)について考えることができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	対象者のQOLについて		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	行事やレクリエーションの主な内容や参加者にもたらす効果について理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	行事やレクリエーションについて		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護者の役割と企画、運営、評価方法について学ぶことができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	レクリエーションの企画、運営、評価方法について		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	チームの一員としての介護福祉士の役割、多職種の役割、チームで働くことについて考え、多職種について理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	多職種連携、チームで働くことについて		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	カンファレンスの内容、各専門職、利用者、家族の視点について学ぶことができる。	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・ 介護実習、実習と 記録 滋慶教育 科学研究所	使用教材の指定部分を事前に読んでおくこと。 事前学習、復習をすること。
		各コマにおける授業予定	カンファレンスについて		